

20086

当院の RAS 施行患者背景の比較

【はじめに】2008 年 3 月より循環器科にて腎動脈ステント(以下 RAS)を施行するようになり、当院では 90 例以上の施行を経験している。

【目的】RAS 施行患者の背景を調べ、どのような傾向にあるか検証した。

【対象及び方法】2008. 3. 1～2014. 12. 31 の期間に RAS を施行した 94 件(男性 67 件、女性 27 件・平均年齢 69. 1±10. 7 歳、対象患者 68 名)の男女比、PCI 歴、TLR、Risk factor などの比較検討を行った。

【結果】RAS を施行した 68 名中 14 名(20. 6%)が両腎を治療していた。また、TLR は 11 件(11. 7%)でその内男女比で見ると、男性 10 件(15. 0%)・女性 2 件(7. 4%)であり、男性の方が女性に対し TLR 率が 2 倍程高かった。RAS 施行患者で PCI 歴があるのは 68 名中 55 名(80. 9%)と高値を示し、Risk factor では他の Intervention より、RAS 施行の TLR 患者は罹患率が高い傾向にあった。

【考察】PCI を施行している患者は ASO も併発していることが多く、そのため RAS 施行患者は全身の動脈硬化が強い可能性が考えられる。

【結語】RAS 施行患者は CIN の発生リスクも高く、また Intervention を施行している傾向にあるため、造影剤使用量や腎機能低下に十分注意する必要性がある。